

vol.49- 8 (通算 557号)

2019年 11月号

# やどかり

2019年11月15日発行  
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可  
発行人 公益社団法人やどかりの里  
代表者 土橋 敏孝

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円(含会費)

## 生活とは何か，人間とは何か

### 岩本正次初代理事長の教えを未来につなぐ

2020年夏，やどかりの里は50周年を迎える。この節目において，やどかりの里の原点を見つめ直し，先達の教えとその思いを学び，未来につなげていくことは大切なことだ。

やどかりの里の50年を語る時，初代理事長の岩本正次先生（2008年没）から改めて学ぶ必要がある。先生は，印度哲学を学び，後年意識生活学を提唱した。先生の哲学的思想や生活を構造化して捉える考えは，やどかりの里のあり方に大きな示唆を与え，今も実践に位置づいている。また，自身のことを「折り紙師」と表現するほど，彼が作り出す折鶴や切り絵は素晴らしく，不思議な魅力を醸し出す温かい人でもあった。

先生は「生活とは生命活動であり，人々の諸要求の充足過程の総体」として捉え，「1人1人の生活行為や生活手段はその人の価値観の現われ」と示している。この「生活における価値観」は1人1人多様であるため，それぞれの生活全体の中でどう位置づけていくか，日々の関わりにおいて大切な視点と指摘されている。

一方，「総体としての生活」はきわめて長期に渡るため，「生活の意味や目的は生活の中に埋没しやすく，その結果，生活技能の習得や生活物資の取得そのものが生活の目的であるかのように受け取られやすい」とも指摘している。これらの指摘から，現在の介護保険や障害福祉制度の中では生活という概念がきわめて狭義に捉えられていることがわかる。

さらに注目したいのは，ソーシャルワークを哲学的に考察している点だ。生活が「人々の諸要求の充足過程の総体」であるならば，ソーシャルワークは人々の要求をどのように受け止め，どう応えるかということになる。

先生は，ソーシャルワークとは“人間とは何か”という問いかけに答えていくものだとし，「人々の要求はさまざまであり，要求の解決方法も定まっていない。ワーカー自らも“人間とは何か”という問いかけに答え，実践していく」と述べている。そして，精神障害を「管理社会の増大とコミュニティの縮小によって生じた異常現象」と社会との関係の中で捉え，「本来的には，何人もできうる人々」という人間観を教えてくれている。

社会構造が変化する現代において，私たちは何に価値をおいて生きていくのか。生活とはなにか，人間とは何かという根源的な問いに答えていくことは，これからも変わらない実践のあるべき姿だ。先達の教えを実践に活かし，築いてきたやどかりの里の価値観。それは，これからの未来を描く際の羅針盤にもなる。そして，今を生きる私たちが先達の教えを学ぶことができるのは，書籍として活字化し，後世に受け継ぐことのできるやどかり出版の活動があるからだ。岩本理論には，未来につなげたい価値観が詰まっている。

引用文献) 谷中輝雄編，岩本正次著：意識生活学の提唱 岩本正次の世界；やどかり出版，2003年